

告 辞

学長 上野 正雄

新入生の皆さん、明治大学への入学、おめでとうございます。

桜満開の今日、ここ日本武道館において、明治大学の仲間として、皆さんを迎えられることは本当に大きな喜びです。

また、これまで皆さんの成長を見守り、支えてこられたご臨席の皆様にも心よりお祝い申し上げます。活力に溢れた明治大学で更に大きく成長する学生達を、これからも見守ってください。

そして、この入学式のライブ配信をご視聴いただいている関係の皆様におかれましても、画面を通してではありますが、共にお祝いできることを嬉しく思います。

さて、いま皆さんを明治大学の仲間と申し上げました。

もちろん、大学が教育と研究をするにあたって、教室も図書館も研究室もグラウンドも大事な要素です。明治大学も計画的にこれら教育研究環境の一層の充実に努めています。

しかし、大学にとって何よりも大切なものは人です。大学の教育と研究は、教員、職員、そして、皆さん方学生、この3者が集まることによって維持され、展開されているのです。

では、この3者は何のために集まっているのか。つまり、皆さんが明治大学に入学するということはどういうことか。それは、何を目指して私学である明治大学が創設されたか、ということと同義です。

皆さん、ご存じでしょうか。明治大学は建学の精神を「権利自由、独立自治」としています。今日、これを覚えてください。

明治大学は、この精神を実現するために、143年前に創立され、現在も存在しているのです。

ここで、少し明治大学の歴史について触れたいと思います。

1881年つまり、徳川将軍の大政奉還から僅か13年後に、法律を学んだ3人の若者によって創設されました。鳥取の岸本辰雄、山形の宮城浩蔵、福井の矢代操です。1870年に明治政府の要請により各藩から選抜された、18歳、19歳の眉秀でたる若人たちでした。東京の司法省法学校で出会い、外国人教師ボアソナードからフランス法学を学んだ彼らが、それから11年後に、様々な困難を乗り越えて、現在の有楽町数寄屋橋交差点近くに、明治法律学校を開校させたのです。彼らをそこに導いたもの、それは、日本社会に、権利自由の尊重と自立した個の確立を意味する「権利自由、独立自治」を、言い換えれば、自由主義と民主主義の理念に基づく近代法を根付かせることに向けた情熱でした。

つまり、「権利自由、独立自治」の実現は、明治大学が存在する目的なのです。もちろん、これは、単に法律の分野に限定されるものではありません。「権利自由、独立自治」の主体は個人であり、そこでは、一人ひとりが個人として相互に尊重されなければならないことを考えれば、当然のことながら、明治大学の現在の10学部16研究科はもとより人間社会に存する全ての学問分野が等しく深化することが、個人としての尊重に繋がります。

さて、皆さん、創立から143年経った現在、「権利自由、独立自治」は達成されたのでしょうか。考えてみてください。環境破壊、気候変動、戦争、弾圧、差別、貧困など、今この時も、様々な問題が日本や世界を覆っています。これを見れば、答えは明らかでしょう。今、社会はそういう状況にあります。

明治大学は、そうではない、一人ひとりが個人として様々な場面で尊重される社会の実現に向けて、これからも教育と研究の分野で社会に貢献していかなければならないのです。明治大学が社会の公器として存在すべき理由がここにあります。

皆さんも、明治大学が建学以来、かざしてきたこの「権利自由、独立自治」の旗を、我々教職員、先輩学生、そして、60万の卒業生や多くの応援者とともに、明治大学の一員として、つまり仲間として、支えるべく努力してください。

今日から、明治大学生として明治大学の仲間となった皆さんにも与えられたこの使命を達成するための努力。この努力は、しかし、同時に、皆さん自身の将来にとっても、極めて有用であると信じています。

一人ひとりを個人として尊重する、一人ひとりが個人として尊重される、そのためには、そこにある多様性を承認することが前提となります。明治大学には、様々な地域、国から様々な背景を持った学生と教員が集っています。全学部研究科が様々な分野の研究成果を授業科目として学生に伝えることで、様々な知識、価値観、文化の学びを提供しています。数多くのサークルなどの課外活動を通じて、様々なコミュニケーションの場を設けています。

このような、開かれた、そして活力に溢れたキャンパスにおいて、明治大学は皆さんをしっかりと支えます。

皆さんは、この明治大学で、私よりもずっと皆さんの年齢に近かったときに創立者3人が掲げた「権利自由、独立自治」の精神を実感し、体得してください。

それは、皆さんが、これから、この社会を生きていくうえで、重要な指針になるはずです。

今日の記念すべき第一歩をしっかりと記憶に止め、ここから、自分自身の未来を、そして、皆さんに託された、日本の、世界の、さらに明治大学の未来を堂々と切り開いていってください。

前へ。仲間とともに、「前へ」進んでいきましょう。

これをもって明治大学の仲間となった皆さんに送る、学長告辞とします。